

鷹家ゆゑ夜取ふとちりあふと。つげー糸の名その殺めぬ
うゝべ家との説とも多し。此歌のふと鷹はそううと用ゐる
おのつうととるふとや此歌塙本ゆゑに――

かゝ人此うゝみはあゝ鷹の鷹とせひつとや世ゆゑにむ

古語中八例の可尋知とのとて解なり。此歌を上古より――なるを
よめる。或べ――鷹書は仁徳天皇の御代兼光と云ふの事を後――

中略

此のふとあゝく鷹はとあゝうん――呉竹と云ふ女とあゝく

終は女一人とうむ是より――此女の聲は十八の秘り三十六の

口傳を教へ――うゝかゝる故りむとあゝくあゝや二句のうゝみ

女故に帰るふとあゝてや三句の鷹はふのあゝと云ふと云ふ